

# 第2期 松前町人口ビジョン

令和2年3月

松 前 町

## 目次

1	松前町人口ビジョンの意義	1
2	松前町人口ビジョンの対象期間	1
3	松前町の人口の現状分析	
	(1)年齢別人口	2
	(2)人口の推移	3～4
	(3)人口動態	5～6
	(4)産業別就業者	7
4	社人研の将来人口推計と分析	
	(1)社人研の人口推計の概要	8
	(2)社人研の将来人口推計値	8～9
	(3)将来人口推計の分析	10
5	松前町の将来人口推計と分析	
	(1)将来人口の推計	11
	(2)将来への取組み	12

# 第2期 松前町人口ビジョン

## 1 松前町人口ビジョンの意義

松前町人口ビジョンは、本町における人口の現状分析を行い、人口減少問題に関する町民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

少しでも人口減少に歯止めをかけるため、効果的な施策を立案する上で、重要な基礎となることを認識し策定します。

## 2 松前町人口ビジョンの対象期間

松前町の人口ビジョンの対象期間は、25年後の令和27年（2045年）とし、松前町総合計画との整合を図るとともに、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」と表記します）の人口推計を基礎数値として用います。

### 3 松前町の人口の現状分析

#### (1) 年齢別人口

松前町の人口ピラミッドは、いわゆる「団塊の世代」の前後が膨らむ、ワイングラス形となっています。

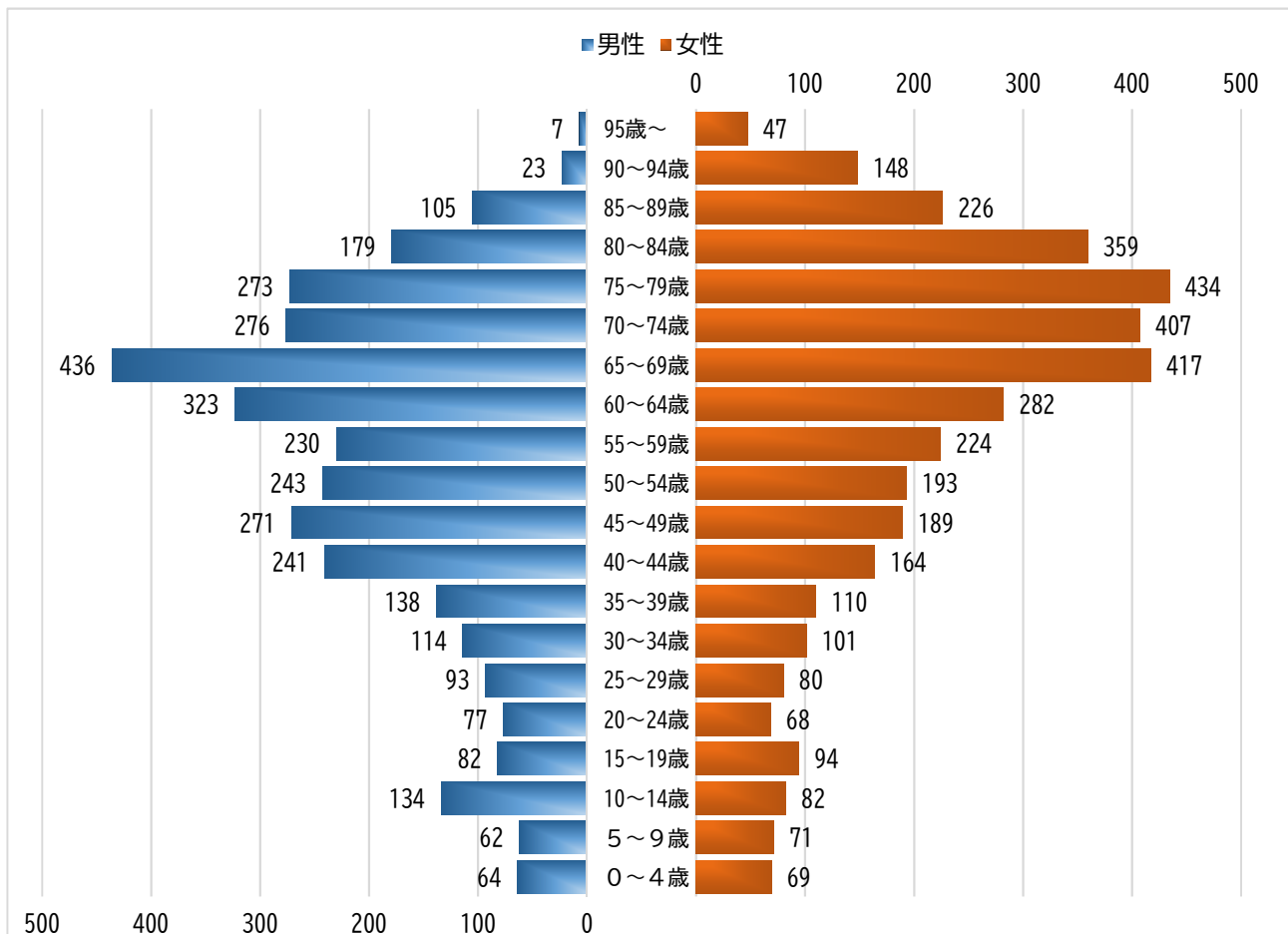
40歳後半の第2次ベビーブーム世代前後が、松前町の生産人口の中心となっています。

少子化の影響や、高校を卒業後、多くの若者が就職や進学で町外へ流出してしまうため、20歳代前半が極端に少なくなっています。

また、40歳以下の女性が少なくなっています。

どのようにしたら20歳代から30歳代後半までの「子育て世代」に松前町へ残ってもらえるか、重要なテーマとなります。

◆松前町 人口ピラミッド（平成31年3月31日現在・住民基本台帳）



## (2) 人口の推移

### ア 総人口

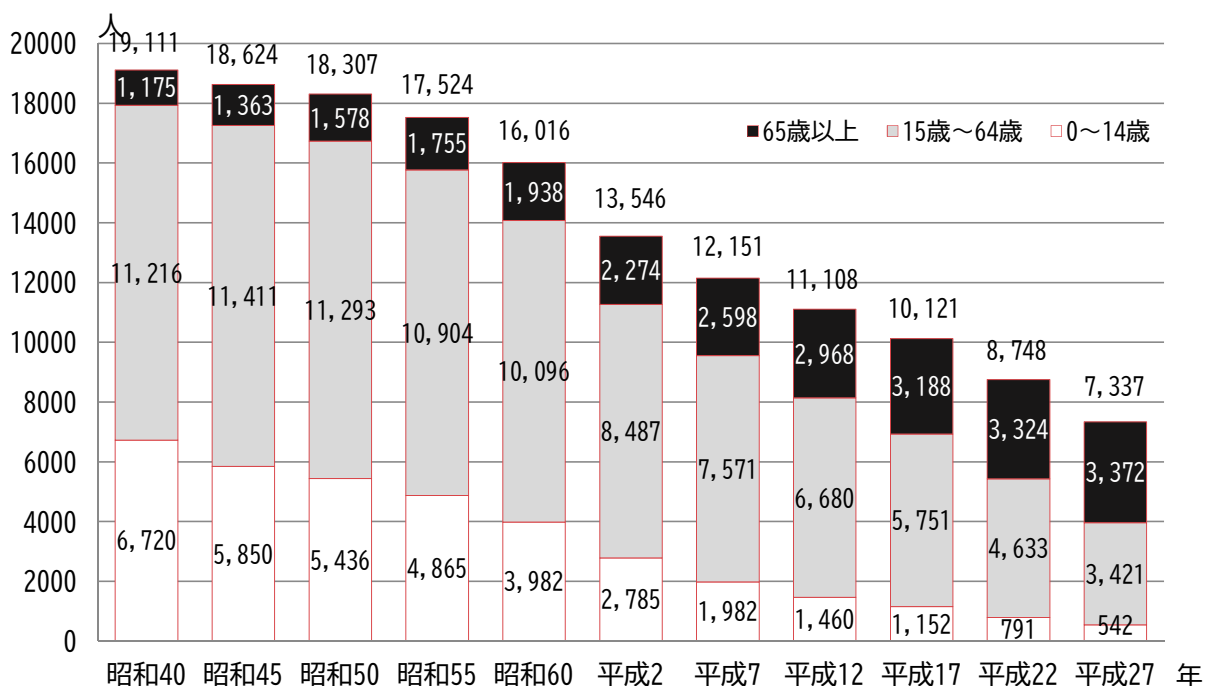
総人口は昭和30年の20,072人をピークに、減少に転じています。昭和55年と平成27年を比較すると、約10,000人減少し、約4割になっています。

世帯数は昭和60年まで増加傾向にありましたが、それ以降は減少しています。

#### ◆総人口の推移（国勢調査）

区分	世帯数	人口			前回増減 %	昭和55年を 100とした場合
		男	女	計		
昭和30	3,496	10,318	9,586	20,072	-	114.5
昭和35	3,782	9,948	9,586	19,534	△2.68	111.5
昭和40	3,990	9,773	9,338	19,111	△2.17	109.1
昭和45	4,239	9,339	9,285	18,624	△2.55	106.3
昭和50	4,553	9,187	9,120	18,307	△1.70	104.5
昭和55	4,682	8,758	8,766	17,524	△4.28	100.0
昭和60	4,703	7,852	8,164	16,016	△8.61	91.4
平成2	4,483	6,337	7,209	13,546	△15.42	77.3
平成7	4,425	5,646	6,505	12,151	△10.30	69.3
平成12	4,370	5,183	5,925	11,108	△8.58	63.4
平成17	4,203	4,769	5,352	10,121	△8.89	57.6
平成22	3,959	4,028	4,720	8,748	△13.54	49.9
平成27	3,571	3,283	4,054	7,337	△16.12	41.9

#### ◆年齢階層別構成割合の推移（国勢調査）



## イ 地区別人口

地区別では、昭和55年を100とした場合、平成27年の指数を見ると、大島地区、白神地区の減少率が約30%、小島地区、月島～大沢地区が約40%で、官公庁や商業施設、医療機関などがある建石～豊岡地区の減少率がほかと比べて緩やかになっていますが減少率は約50%となっており、全ての地域で大きく減少しています。

### ◆地区別（旧小学校単位）の人口推移（国勢調査）

区 分	昭和 55	昭和 60	平成 2	平成 7	平成 12	平成 17	平成 22	平成 27	昭和 55 を 100
原 口	822	751	590	570	479	426	314	233	28.3
江 良	2,903	2,570	2,007	1,758	1,705	1,549	1,223	973	33.5
清 部	1,056	898	702	576	509	462	404	327	31.0
茂草～札前	2,426	2,145	1,831	1,627	1,497	1,373	1,232	1,039	42.8
館 浜	794	724	586	542	478	453	393	333	41.9
建石～豊岡	6,203	6,023	5,357	4,874	4,468	4,118	3,665	3,183	51.3
月島～大沢	2,071	1,869	1,653	1,489	1,342	1,182	1,015	844	40.8
荒谷・白神	1,249	1,036	820	715	630	558	502	405	32.4
総 数	17,524	16,016	13,546	12,151	11,108	10,171	8,748	7,337	41.9

### (3) 人口動態

本町では、出生数と死亡数による増減（自然動態）は、年々減少幅が多くなってきています。出生数は、20～30人代で推移して前後で推移していますが、若年女性人口が少ないことや今後も減少が予想されることから、少子化の傾向はよりいっそう進行するものと思われます。

また、死亡者数もここ数年増加傾向にあります。現在が、65歳以上人口のピークと考えられることから、今後もこの傾向は続くものと予想されます。

社会動態ですが、ここ数年は110人程度の転出超過となっています。高校を卒業する年代をはじめ、20代の若年者の転出が目立っています。自治体間では、函館市周辺市町への転出超過が目立っており、同様の傾向が続いています。

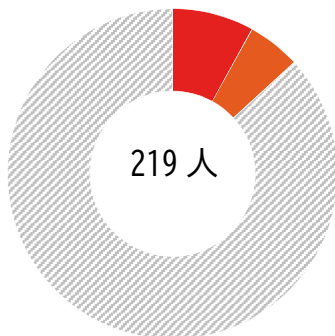
#### ◆年度別出生・死亡・転入・転出者の推移

区分		平成 17	平成 22	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
自然動態	出生	48	25	30	22	26	22	33
	死亡	155	143	151	167	143	193	174
	増減	△107	△118	△121	△145	△117	△171	△141
社会動態	転入	344	273	275	261	228	260	219
	転出	524	422	382	364	350	377	337
	増減	△180	△149	△107	△103	△122	△117	△118
その他の増減		4	6	0	3	△2	1	1
総増減		△283	△246	△227	△245	△241	△287	△258

資料：住民基本台帳移動報告・年報（町民生活課）

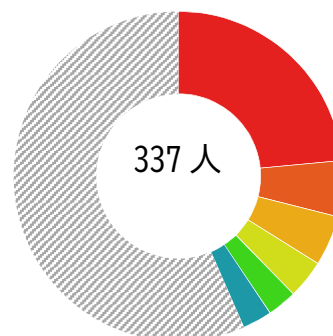
#### ◎転入数・転出数の上位地域（10人以上）

転入数内訳（平成30年）



- 1位 青森県むつ市 (17人)
- 2位 北海道札幌市東区 (11人)
- ▨ その他 (184人)

転出数内訳（平成30年）



- 1位 北海道函館市 (81人)
- 2位 北海道北斗市 (19人)
- 3位 北海道七飯町 (17人)
- 4位 北海道札幌市西区 (13人)
- 5位 青森県むつ市 (10人)
- 6位 北海道江差町 (10人)
- ▨ その他 (195人)

◆年齢別若年世代の人口動態

年齢	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	平成 31
17 歳	74	82	89	54	72	75	56	62	38	48
18 歳	73	56	54	61	36	47	44	36	32	28
19 歳	50	54	46	44	54	31	41	30	33	25
20 歳	32	42	51	40	37	50	32	33	32	30
21 歳	49	22	32	44	32	30	34	30	25	25
22 歳	41	45	24	28	38	30	30	30	33	24
23 歳	46	37	46	22	27	39	30	32	30	30
24 歳	44	50	30	44	23	31	44	28	34	32
25 歳	44	44	51	31	44	25	31	42	30	34
26 歳	49	40	49	50	36	37	23	32	39	31

資料：住民基本台帳移動報告・年報（町民生活課）

平成 22 年度に 17 歳だった世代に注目すると、高校を卒業する 19 歳で 1/3 程度、21 歳で半分ほど転出しています。しかし、25 歳になると、若干ですが、人数が増える傾向にあります。このような傾向は、他の年にも共通しています。



#### (4) 産業別就業者

昭和55年の産業別人口を見ると、就業者の多い順に建設業、漁業、製造業でしたが、平成27年の調査では、サービス業、製造業、小売・飲食業と大きく産業構造が変化しています。

特に基幹産業といわれた漁業と、出稼ぎの多い町といわれた建設業は、ともに約80%も就業者が減少しています。また、漁業従事者の減少に伴い、スルメ加工をはじめとする水産加工業が中心の製造業も約35%減少しています。

なお、現在の松前町で一番多く従事している産業は、医療・福祉・宿泊業といった幅広いサービス業となっています。

松前町の人口問題を考える上で、雇用の場の確保は絶対的なものであり、持続可能な産業、職種、企業への支援が不可欠となります。

#### ◆産業別人口の推移 (国勢調査)

区 分	昭和 55	昭和 60	平成 2	平成 7	平成 12	平成 17	平成 22	平成 27
農業	128	77	84	98	34	42	37	26
林業	71	64	52	53	58	53	33	33
漁業	1,693	1,293	988	1,020	733	584	395	303
鉱業	32	32	2	37	8	-	2	4
建設業	1,734	1,480	1,098	1,021	1,080	951	490	384
製造業	1,080	1,132	1,166	1,017	908	869	772	700
小売・飲食業	922	848	767	772	750	703	614	505
金融・保険業	74	78	91	80	75	48	53	41
不動産業	8	6	7	3	-	6	6	8
運輸・通信業	237	193	184	184	180	112	116	94
ガス・水道等	25	22	15	17	14	5	12	10
サービス業	967	986	1,002	1,044	964	882	792	783
公務	542	525	520	553	470	412	389	358
分類不能	3	-	-	2	1	5	3	2
計	7,516	6,736	5,976	5,901	5,275	4,672	3,714	3,251

## 4 社人研の将来人口推計と分析

### (1) 社人研の人口推計の概要

国立社会保障・人口問題研究所は、平成 30 年 3 月に「日本の地域別将来推計人口」を公表しました。この推計を松前町人口ビジョンの基本としていますが、その推計概要については、次のとおりです。

#### ア 推計方法

- ・5歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を使用。
- ・コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法。
- ・5歳以上の人口推計においては生残率と純移動率の仮定値が必要。
- ・0-4 歳人口の推計においては生残率と純移動率に加えて、子ども女性比および0-4歳性比の仮定値によって推計。
- ・本推計においては、①基準人口、②将来の生残率、③将来の純移動率、④将来の子ども女性比、⑤将来の0-4 歳性比、が必要となる。
- ・各地域別の推計値を求めた後、全国の推計結果と一致するよう補正を行っている。

#### イ 基準人口

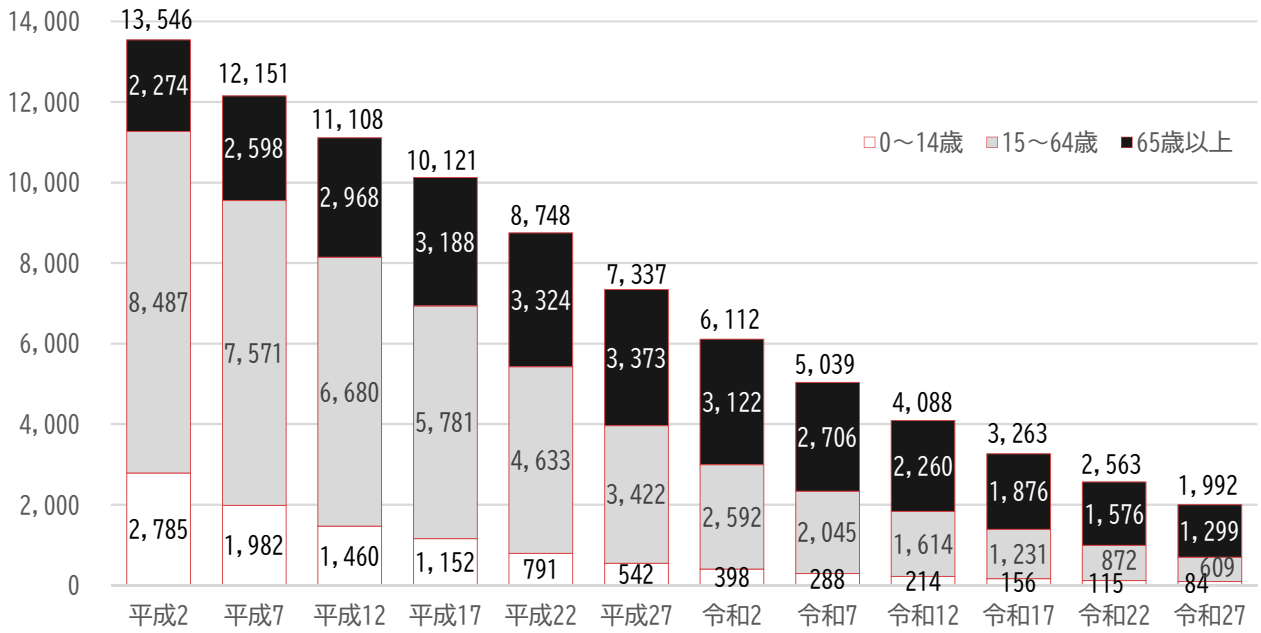
- ・平成27年国勢調査人口

### (2) 社人研の将来人口推計値

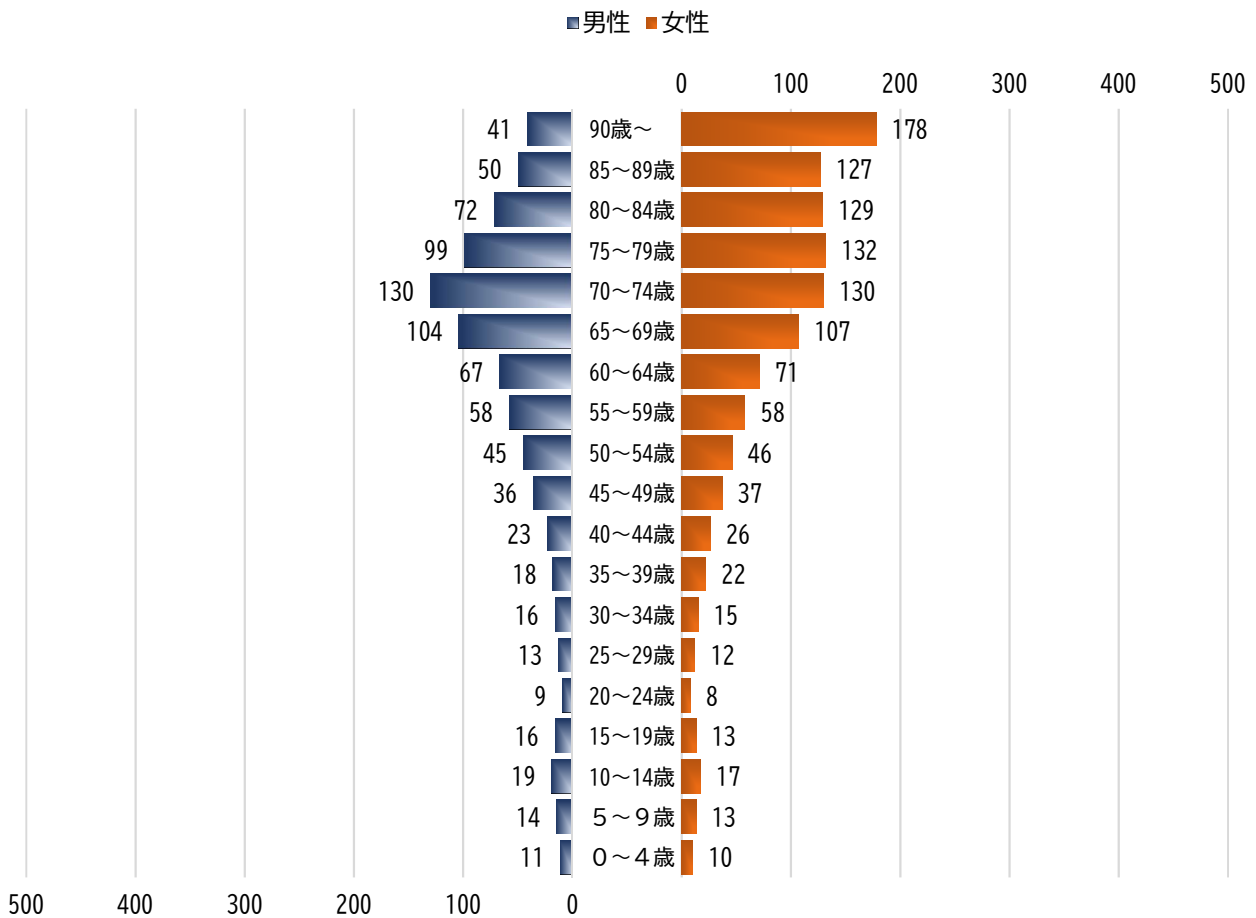
年	0～14 歳	割合	15～64 歳	割合	65 歳以上	割合	計	平成 27 を 100
平成 2	2,785	20.6%	8,487	62.7%	2,274	16.8%	13,546	184.6
平成 7	1,982	16.3%	7,571	62.3%	2,598	21.4%	12,151	165.6
平成 12	1,460	13.1%	6,680	60.1%	2,968	26.7%	11,108	151.4
平成 17	1,152	11.4%	5,781	57.1%	3,188	31.5%	10,121	137.9
平成 22	791	9.0%	4,633	53.0%	3,324	38.0%	8,748	119.2
平成 27	542	7.4%	3,422	46.6%	3,373	46.0%	7,337	100.0
令和 2	398	6.5%	2,592	42.4%	3,122	51.1%	6,112	83.3
令和 7	288	5.7%	2,045	40.6%	2,706	53.7%	5,039	68.7
令和 12	214	5.2%	1,614	39.5%	2,260	55.3%	4,088	55.7
令和 17	156	4.8%	1,231	37.7%	1,876	57.5%	3,263	44.5
令和 22	115	4.5%	872	34.0%	1,576	61.5%	2,563	34.9
令和 27	84	4.3%	609	30.6%	1,299	65.2%	1,992	27.2

※太枠囲みが推計値

◆社人研の将来人口推計グラフ（25年後 令和27年）



◆松前町 人口ピラミッド（25年後 令和27年・社人研推計）



### (3) 将来人口推計の分析

#### ア 総人口

将来推計で、社人研の推計では、25年後の令和27年で2,000人を下回ると推計されています。

人口ピラミッドを見ると、一番多い世代が70歳代で、約2/3が高齢者となる町になります。

#### イ 高齢者人口

増え続けてきた高齢者人口は、平成27年集計がピークと推計され、高齢者人口は、今後減少していくことが予想されますが、若い世代がさらに減少するため、令和27年の高齢化率は65.2%と予想されており、3人に2人が65歳以上ということになり、社会保障費の財源が心配されます。

#### ウ 若年者人口

14歳以下の若年者人口は、100人以下という推計がされ、より少子化が進むものと予想されています。

#### エ 生産年齢人口

15歳から64歳までの生産年齢人口も急激な減少が予想されており、町の活力の低下が懸念されています。

## 5 松前町の将来人口推計と分析

### (1) 将来人口の推計

松前町の将来人口の推計について、前述「日本の地域別将来推計人口」（平成 30 年 3 月公表）と令和元年 6 月に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局から提供された「人口動向分析・将来人口推計ための基礎データ等」を基に、以下の 3 つのパターンで推計しました。

① 社人研推計

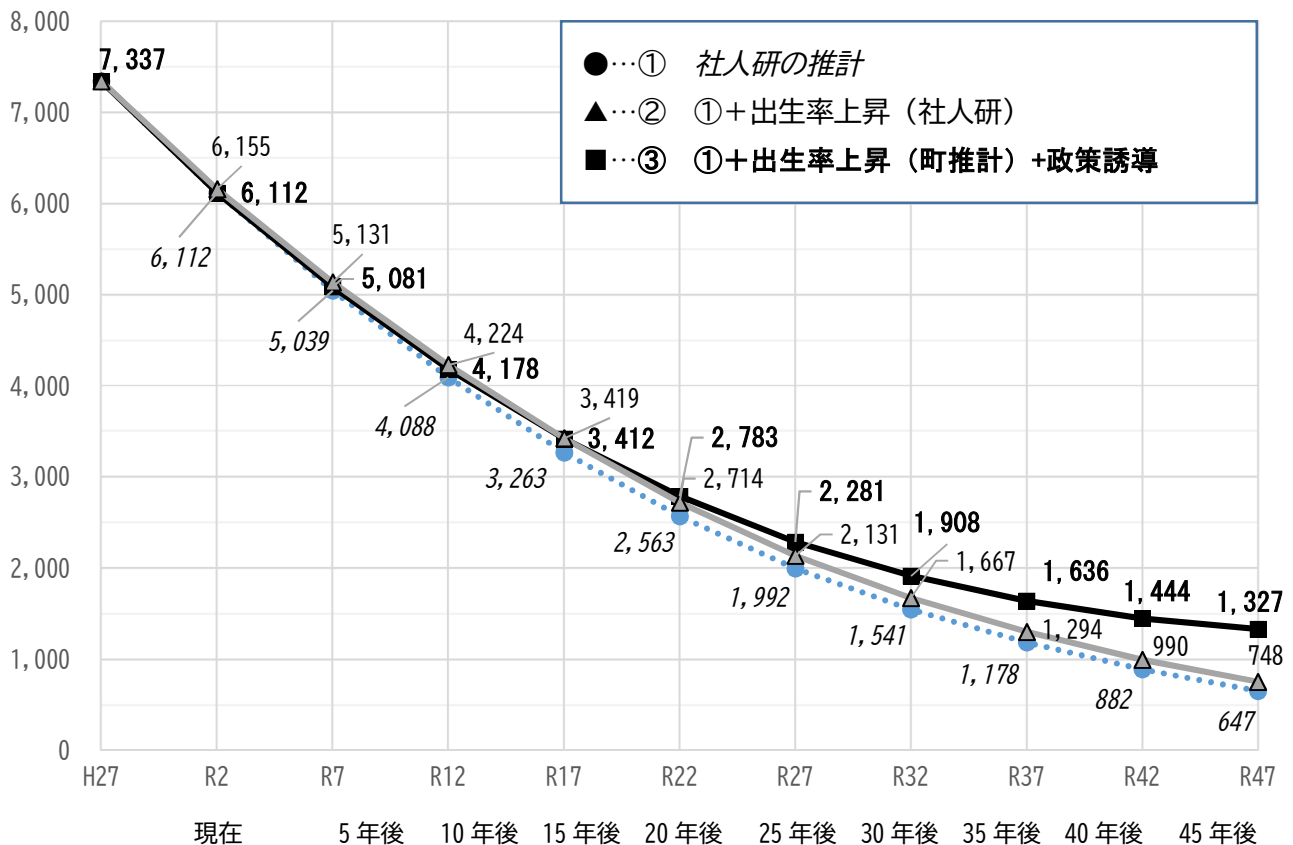
② ①社人研推計+出生率上昇（社人研推計値）

松前町の令和 2 年の特殊出生率は 1.10 と推計されていますが、これを令和 12 年に社人研が定める 2.10 へと上昇させ、以降も 2.10 と仮定したものを。

③ ①社人研推計+出生率上昇（町独自推計値）+政策誘導

出生率を10年で社人研推計まで急激に上げることは困難であるため、令和37年で2.10へと徐々に上昇させると仮定し、さらに人口の社会減少（転入出）を徐々に抑えるよう、生産年齢人口を確保するよう政策誘導し、令和27年時点での総人口2,200人以上（社人研推計比+280人）の確保を目標としました。

◆松前町の人口推計（平成 27 年～令和 47 年・国勢調査値）



年	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42	R47
①	7,337	6,112	5,039	4,088	3,263	2,563	1,992	1,541	1,178	882	647
②	7,337	6,155	5,131	4,224	3,419	2,714	2,131	1,667	1,294	990	748
③	7,337	6,112	5,081	4,178	3,412	2,783	2,281	1,908	1,636	1,444	1,327

## (2) 将来への取組み

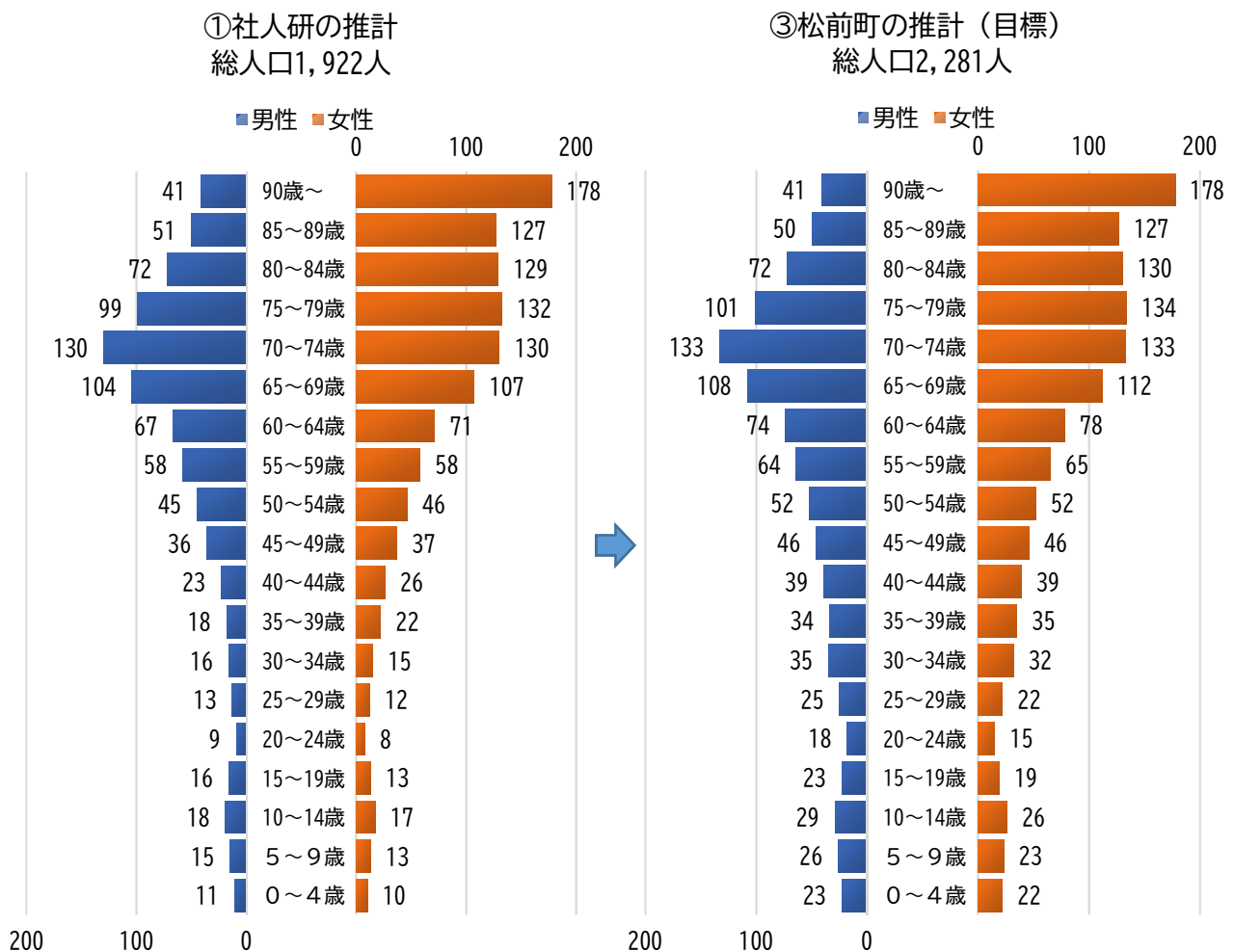
将来人口について、①「社人研の推計」を「低位推計」、②「①社人研推計+出生率上昇」を「中位推計」、③「①社人研推計+出生率上昇（町独自推計）+政策誘導」を「高位推計」とします。

目標年である令和27年の総人口は、低位推計で1,992人、中位推計で2,131人、高位推計で2,281人となっています。

高位推計は、低位推計の約1.1倍となっており、松前町総合戦略の政策誘導によって、2,200人台を確保しようとしています。

少子化、高齢化、生産人口の減少と、どれも松前町にとっては重い課題となりますが、松前町の人口減少対策は「待ったなし」の状況となっています。

松前町総合戦略の重点戦略を推進し、人口減少という急激な流れをなるべく緩やかなものにし、私たちの大切なふるさとが将来に渡って安心して暮らせる町であるよう、改めてその取組みを強化していかなければなりません。



## 第2期 松前町人口ビジョン

初 版： 令和 2年 3月23日決定

北海道松前町 政策財政課

〒049-1592 北海道松前郡松前町字福山 248 番地 1

電話：0139-42-2275 FAX：0139-46-2048

<http://www.town.matsumae.hokkaido.jp>